

# 小学校社会科における学習教材「地域かるた」の開発と活用

——茨城県笠間市を対象に——

柳田 咲耶\*・村山 朝子\*\*

(2023年10月23日受理)

Development and utilization learning materials“Regional Karuta” in Elementary school Social studies

Sakuya YANAGIDA and Tomoko MURAYAMA

キーワード：小学校社会，地域学習，かるた，教材，市の様子の学習，市町村合併

本研究は、小学校第3学年の冒頭単元「身近な地域や市町村の様子」の学習における「市の」学習教材として「地域かるた」を制作し、その有効性を検討する。いわゆる平成の大合併によって市町村合併が一気に進んだ。合併により市域が児童の日常生活圏を超えて大きく拡大した市においては、市内の児童が偏りなく「市の様子」について共通理解を図ることは容易ではない。一方で、初めて学ぶ社会科の導入に置かれ、“遊びながら”あるいは“体験しながら”学ぶことができる教材や活動を取り入れて、生活科から段差なく社会科の学習に進む工夫が必要な単元でもある。

「かるた」は遊びながら自然に学ぶことができる特性をもち、教材としての汎用性が高い。本研究では、茨城県笠間市における地域学習教材として「笠間地域かるた」を新たに制作し、その有効性についての検証実践を市内3校において実施した。事後調査では、札に詠まれた場所や事柄について「行ってみたい」、「知りたい」といった行動をとるよう地域に対する興味・関心が顕著にみられ、笠間の「知らなかったことを知るためのきっかけ」として有効性が認められた。また、市内小学校の第3学年において年間を通して同かるたを活動に取り入れた総合的な学習の時間では、多様な活用と児童による主体的な学びを促す効果が認められた。

## I はじめに

茨城県では、いわゆる平成の大合併によって一気に合併が進み、市町村数は平成11(1999)年3月末の83から、7年間で44に再編された。市町村合併の影響は社会科の学習にも及んでいる。合併によって市の範囲が拡大したため、小学校中学年の地域学習における市町村の学習では、市町村域が子どもの直接経験を活用しうる地域的範囲をはるかに超えるケースが増えている。

---

\*茨城町立長岡小学校 \*\* 茨城大学教育学部

平成 29 (2017) 年改訂小学校学習指導要領では、第 3 学年の「身近な地域や市区町村 (以下市と略す) の様子」の学習において、「自分たちの市」に重点を置くことを求めている。この単位では、教科書とは別に、市町村が独自に作成した副読本が主たる教材として使われることが多い。しかし、社会科導入期でもある同単位において、児童が自分の住んでいる市について身近に感じ主体的に学習していくためには、“遊びながら” “体験しながら” 学ぶことができる教材や機会が必要であると考える。

本稿では、“遊びながら” “体験しながら” 学ぶことができる教材として、かるたに着目した。かるたは学校の授業時間だけでなく、休み時間や家庭でも遊ぶことが可能である。自分の住んでいる市に関するかるたを活用して“遊びながら学ぶ”ことを通して市を身近に感じ、市に対する知識を確かなものにしていくことが期待できる。

既存のいわゆる郷土かるたは各地に存在するが、本稿では、小学校社会科における地域学習の教材として、新たにかるたを試作し、その有効性について検証する。制作にあたっては、既存のかるたがない市、平成の市町村合併で幾つかの市町村が合併した市、市内でも地区によって地域性が異なる市、といった条件を満たす市を対象とし、茨城県笠間市を選定した。

まず、学習指導要領における当該学習の趣旨を踏まえ、市の地域的特色を抽出するとともに、学習指導要領解説や教科書、副読本も参考にしながら読み句の要素と項目の設定を行う。そのうえで、読み句を作成する。なお、絵札は、「訪れたことがある」、「見たことがある」といった児童の気づきを導きやすい写真を用いる。

試作後、市内の小学校で地域かるたを教材とする実践授業を行い、児童の感想やアンケート、教員による評価も踏まえ、地域かるたの小学校社会科での教材としての有効性の検証を試みる。地域かるたを用いて子どもたちにどのような資質能力を育むことができるか、また、社会科教材として有効に機能するためにはどのような内容にすればよいのか、さらに他のコンテンツとの組み合わせ等についても考察していく。

## II 地域学習教材としてのかるた

かるたは、遊技的価値と教育的価値を持ち合わせている。小学校第 3 学年は、初めて社会科を学ぶ学年であり、遊技的価値も持ち合わせた教材を用い、すべての児童が意欲的に学ぶことができる環境をつくる必要がある。社会科導入期において、児童が社会科に抵抗感なく取り組むきっかけとしても、地域かるたは有効な教材となり得ると考える。

小学校社会科での地域かるたの有効性として次のようなことが想定される。

第一に、遊びながら自然に学ぶことができることである。かるたは、家庭でも、地域でも、学校でも使うことができる。簡単に遊べる道具であるからこそ、時や場を選ばず、児童は自然と知識・理解を育むことができるようになる。

第二に、教材としての幅が広いということである。地域かるたは工夫次第で様々な応用が可能な教材であり、かるたを手段として様々な学習につなげていくことができる。例えば、地図上にかかるたの場所を確認するなどして空間認識を養ったり、クイズをすることで興味の幅を広げたり、授業

で特定の札を手掛かりに学習を展開することもできるだろう。他教科での活用や他教科との連携も可能である。低学年から高学年まで段階的にその活用方法を変えながら、継続して利活用できる教材でもある。

第三の有効性としては、郷土愛を育むことが期待できるということである。家庭や地域と連携することによって、保護者や地域の人にも自分の住んでいる地域に関して愛着をもつきっかけづくりにもなるだろう。

社会科を主とする学校での学習教材として、一般に使われる郷土かるたと区別するため、本研究では名称を「地域かるた」とする。地域かるたの定義は、原口・山口 (1995)<sup>1)</sup> の「郷土かるた」の定義を参考としつつ、以下のように定めた。

① 対象地域は、都道府県ないし市区町村範囲（学区も可）であること。

かるたを用いることにより、自分が住んでいる地域に加えて、それをとりまく市や都道府県を身近な地域として感じる事ができれば、小学校中学年での学習にも主体的に取り組むことができるであろう。

② 取り上げる題材は、地域の特色を表す事柄（例：自然・歴史・産業・文化・地名等）とする。

特定の事柄に偏らず、多くの要素を取り入れることで、市を多面的・多角的に捉え、地域の様子を総合的に理解することができる。

③ 「いろはかるた」もしくは「あいうえお」かるたであること。

“ゐ・ゑ”は児童にとって普段使う言葉ではないため、省略する。

### Ⅲ 地域かるたの制作

これまで述べてきたとおり、地域かるたは教育的に価値があり、児童が楽しく身近な地域や市、都道府県などの様々な規模の地域学習に取り組むための教材として有効性が期待できる。本研究では、既存の地域かるたの長所や課題を参考にしつつ、社会科教材として有効に機能する地域かるたを試作した。既存の地域かるたはそれぞれに制作目的がある。それらも社会科で活用することは可能であるが、本研究では、社会科学習で使うことを目的として一から制作を試みた。

かるた制作にあたり、まず、範囲の設定を行った。冒頭でも述べたように、今回の地域かるたの範囲は「市」とする。対象市は、既存の地域かるたがないこと、市町村合併などにより市域が比較的広く、市域の地区ごとの地域性が大きく異なることが、モデルとして適している。以上の条件にあてはまる茨城県笠間市を対象に、地域かるたを制作することにした。笠間市は県央地域に位置し、県内ではもっとも遅い平成 18 年 3 月末に旧笠間市、友部町、岩間町が合併して新市として誕生した。旧市町はそれぞれ地域性が異なり、児童の日常生活圏も異なる。こうした状況で市の学習を行うには多くの困難が予想され、地域かるたの有効性を検証するのに適切な市の一つといえる。

制作にあたり、まず、笠間市の地域的特色を明らかにした。具体的には、市勢要覧、笠間市 HP、笠間市観光協会 HP、笠間市副読本『かさま』<sup>2)</sup>、『笠間志学』<sup>3)</sup>等を参照しながら、必要に応じてフィールドワークも行った。次に、小学校学習指導要領解説や教科書から、小学校の地域学習で取り上げるべき要素を抽出した。それに、原口 (2015)<sup>4)</sup>、鈴木 (2011)<sup>5)</sup>などの先行研究を参考にした

表1 地域かるたの要素一覧

要素	項目内容	通常版	初級版
交通	交通の様子	5	7
公共	公共施設、市の取り組み、地域の安全を守る仕事	5	4
歴史	史跡、先人など	5	8
自然	気象、景観、地形など	5	5
伝統・文化	祭り、年間行事等	5	5
産業	名産品や特色のある産業	5	5
地名	難読地名や覚えて欲しい地名	3	2
防災	自然災害を防ぐための取り組み、備え等	5	2
生活	飲料水、廃棄物処理等生活に必要な仕事	3	2
かさま	日本一のもの、市章等、他の要素に入りきらないもの	5	6

うえて、地域かるたで取り上げる要素として、従来の既存の郷土かるたに多い「自然、歴史、産業、伝統・文化」に加えて、「交通、公共、防災、生活、地名、地域独自の要素」を設定した(表1)。次に各要素について笠間市における具体的な事象や地物などをできるだけ多く抽出したうえで、要素間のバランスを考慮しつつ、地域かるたの定義に基づき、取り上げる事柄を絞りこんだ。その際、地域的偏りなく市について空間的に捉えることができるように心がけた。

かるたは通常版と初級版との2種類を制作した(図1・2)。初級版は「稲田石 笠間産の高級石材」、「友部にある 筑波海軍航空隊記念館」というように、「稲田石」、「筑波海軍航空隊記念館」といったキーワードとなる項目を読み句に入れたもので、できるだけキーワードは読み札の頭文字に設定することを心がけた。要素のばらつきが出てしまったが、制作は初級版のほうが容易であった。通常版は、各要素の札数をおおよそ同じく設定し、1札1要素として全体で要素の偏りがないようにした。例えば「みかげ石 笠間でとれる 高級品」、「つらい過去 歴史を刻む 記念館」として、キーワードを直接入れず、かるた取りにとどまらず、「笠間のどこで採れるのか」、「何という石か」、「記念館の名称は」、「どんな歴史があったのか」といった学習に発展させることができることを意図した。両版とも読み札についての解説を制作した。なお、小学校社会科の学習で使用することを想定し、第3学年までの既習漢字以外には振り仮名をつけ、児童が読みやすいようにした。

絵札については、原則写真とした(図3)。風景や地物、催しなどの画像を使用することによって、「行ったことがある」、「見たことがある」といった児童の経験を生かすことができると考えた。自ら撮影すべきであったが、時間的な制約もあり、一部のみとなった。撮影できなかった絵札については、副読本や笠間市HP、笠間市観光公開HP等に掲載された写真を使用した。かるたのデザインに関しては、パワーポイントのテンプレート<sup>6)</sup>を利用した。通常版については枠に1要素につき1つの色をあて、児童が視覚的にもわかりやすいよう工夫した。初級版については要素数にばらつきがでてしまったこともあり、単色にした。かるたは、厚紙コピー紙に印刷し、一枚ずつ切り離し、制作した。

<b>あ</b> 赤い花 山染める つじしまつりで	<b>い</b> 稲田石 空間の 高級石材	<b>う</b> 梅の実が たくさん実るよ 空間は	<b>え</b> エコロジイア 環境守る 処分場	<b>お</b> おいしいね かさまの栗は 日本一
<b>か</b> 片庭に ひびく合唱 セミの声	<b>き</b> 菊まつり みんなの心を 彩るよ	<b>く</b> ぐるぐると 市内を回る かさま観光遊覧バス	<b>け</b> 県のおそ 空間はばらまきの 真ん中さ	<b>こ</b> 高速が 2本交わる 友部JCT
<b>さ</b> 佐白山 空間城が あった山	<b>し</b> 姉妹都市 なかよし 赤穂市・空間市	<b>す</b> すばらしい 技術が光る 空間のお酒	<b>せ</b> 瀬を早み 音清く	<b>そ</b> そばにいて 見守る横断 地域ボランティア
<b>た</b> たった1時間 待たせきわで 東京まで	<b>ち</b> 知恵と工夫 歴史が詰まった 歴史民俗資料館	<b>つ</b> 土にふれ 農業実感 クラインガルテン	<b>て</b> 天狗がね いるんだって 愛宕山	<b>と</b> 友部にある 筑波海軍 航空隊記念館
<b>な</b> 隣分附も 長尾路も 読み方ちやうと むずかしい	<b>に</b> 人間が 切り出しそびえる 石切山脈	<b>ぬ</b> ぬつとそびえる展望台 花も美し北山公園	<b>ね</b> 年月が たつとも名曲 坂本九	<b>の</b> 飲み水は 温沼川浄水場で 作ってる
<b>は</b> ハザードマップ 身近な危険を 子エックしよう	<b>ひ</b> 陶炎祭で 笠間にたくさん 人が来る	<b>ふ</b> 文化の日 豊作占う 流鏝馬	<b>へ</b> べろりと一口 記録に挑戦 いなりすし	<b>ほ</b> 本の貸し出し 日本一 空間の図書館
<b>ま</b> 益子焼・笠間焼 兄弟産地で 日本遺産	<b>み</b> 水戸線と 常磐線が 通る町	<b>む</b> 昔から 伝わる民話 いくつ知ってる？	<b>め</b> 名品が ずらりとならぶ 陶芸美術館	<b>も</b> 本戸にある かえでの紅葉 きれいだな
<b>や</b> やきものラナー 秋葉原まで 一走り	<b>ゆ</b> ゆかいふれあい センター 温水プールが 美しいね	<b>よ</b> よくねばる じねんじよ 空間の特産品	<b>れ</b> レンタサイクルで 空間の魅力 再発見	<b>ろ</b> ろくろ 手びねり 陶芸体験
<b>ら</b> ランニングで 心と体を鍛えよう 陶芸の里ランソンス会	<b>り</b> 立派だな 稲荷に咲いてる 八重の藤	<b>る</b> ルーツは岩間 合気道は 護身の武術	<b>わ</b> 吾国山 愛宕山で ハイキング	<b>を</b> 防犯を になうあさひの パトロール
<b>ん</b> 親鸞聖人 笠間で開いた 浄土真宗				

図1 初級版「笠間地域かるた」読み札

<b>あ</b> 青緑 リボで結ぶ かさまの輪	<b>い</b> いなり寿司 応援するよ いなぎくん	<b>う</b> うぐいすが 鳴けばかさまに 春が来る	<b>え</b> エンジョイ農業 貸し農園	<b>お</b> おいしいね かさまの栗は 日本一
<b>か</b> かさまには 六つも駅が あるんだね	<b>き</b> 気軽に東京 特急ときわで 一時間	<b>く</b> ぐるぐると かさまをめぐる 赤いバス	<b>け</b> 県のおそ かさまはとらても 便利だな	<b>こ</b> 高速道路 北へ南へ東へ西へ
<b>さ</b> 三か所で 市民の生活 支える市役所	<b>し</b> 市の防犯 担うあさひの パトロール	<b>す</b> 住む人の 安全を守るよ 八が浜で	<b>せ</b> 全国一 本の貸し出し 多いまち	<b>そ</b> そばにいて 見守る横断 ボランティア
<b>た</b> 戦わず 己を守る 和の武術	<b>ち</b> 知恵と工夫 歴史が詰まった 資料館	<b>つ</b> 辛い過去 歴史を刻む 記念館	<b>て</b> 天狗様と 愛宕神社 火の用心の守り神	<b>と</b> 友部駅 発車のメロイ 坂本九
<b>な</b> 流れは市内を つらぬいて 豊かな実りの もととなる	<b>に</b> 人間が 切り出しそびえる 石切山脈	<b>ぬ</b> ぬつとそびえる展望台 花も美し北山公園	<b>ね</b> 年月を 重ねた藤が 咲き香る	<b>の</b> 上り下り 見晴らし絶景 ハイキングコース
<b>は</b> はなをさり 山が真つ赤に 燃え上がる	<b>ひ</b> 心を彩る 菊の花	<b>ふ</b> 文化の日 豊作占う神事 流鏝馬	<b>へ</b> べろりと一口 記録に挑戦 できるかな	<b>ほ</b> 他にはない 不平不満を 言う祭り
<b>ま</b> まあるくて すっぱい梅の実 県内一	<b>み</b> みかげ石 笠間でれる 高級品	<b>む</b> 向かい合い ならば工場 かさまに集合	<b>め</b> 名品が ずらりとならぶ 美術館	<b>も</b> もう一杯 地元の米で うまい酒
<b>や</b> やきものに由来 岩間に土師とあり	<b>ゆ</b> 夕暮れ時 片庭に響く 蝉の声	<b>よ</b> 読めるかな 友部の地に 随分附	<b>れ</b> 令和版 避難の仕方 覚えよう	<b>ろ</b> 通学路 危険はないか 子エックしよう
<b>ら</b> 防災行政無線 大事な情報 耳からも	<b>り</b> リハール 毎日点検 （エーテルワイスと カラスの字） ラジオ	<b>る</b> ルート 持ち物 日頃から確認	<b>わ</b> わけられた ごみを処理する エコロジイア	<b>を</b> ごみ処理の 熱を使った 温水プール
<b>ん</b> ん？！ かさまの水は おいしいね				

図2 通常版「笠間地域かるた」読み札

なお、地域かるたの札内容の場所を示した市の地図も制作した（図4参照）。基となる地図は、市の教育委員会から笠間市副読本に添付されている笠間市全図データの提供を受け、駅や小・中学校、警察署、消防署、隣接する市町村などを書き込んだ。また、地図上に場所を表すことができる札を選別し、シールに札の頭文字を書き地図に添付した。地域かるたと地図を併用することで、それぞれの場所を確かめることによって、それぞれの位置関係を把握したり、関連を考察したりすることもできる。検証授業でのかるた取りの際は、模造紙大に拡大した地図を各グループに配付した。



図3 絵札の例<sup>6)</sup>

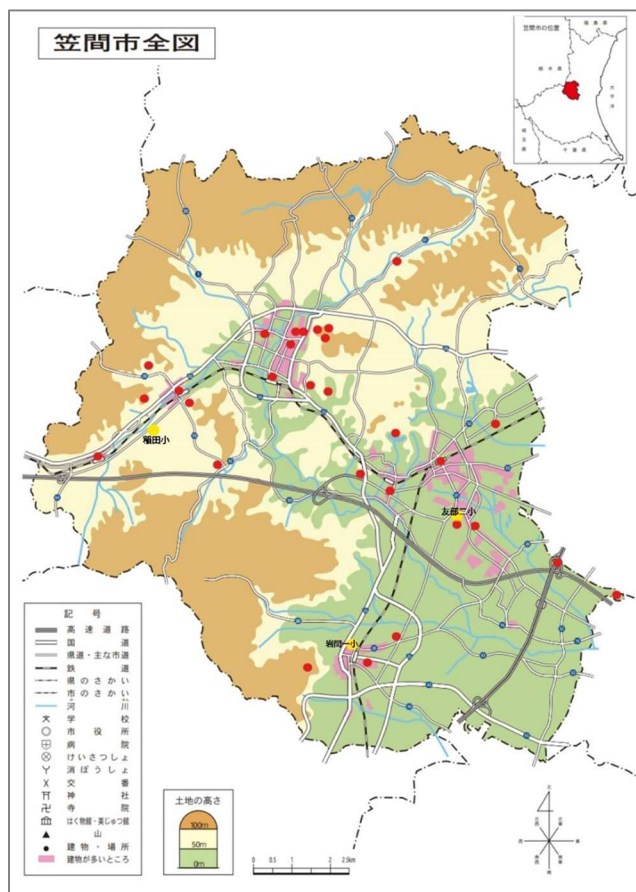


図4 笠間市の地図

(副読本付図上に、かるたに詠まれた事象や地物で位置を示すことができるものについて印をつけた。)

#### IV 地域かるたの有効性に関する検証実践

旧市町地区それぞれに位置する市内3地区（I、T、K）の小学校において検証実践を行った。実施校については、笠間市教育委員会に依頼して各地区から選定していただいた。各校とも第4学年、計3校4クラス（I地区校53名、T地区校41名、I地区校36名）で行った。実施日は2020年11月9日、10日、12月1日である。各校の社会科の1時間の提供を受け、柳田が実践した。外部授業者による単発の特設授業での実施ということをお勘案し、取り組みやすい初級版地域かるたを使用した。実践を行うにあたり、各学校の児童に対して事前・事後にアンケート調査とクイズ（表2～6）を実施した。基本的には各クラスとも表2の流れで行った。

表2 検証授業の展開

活 動	働きかけ
1. 趣旨説明 ・かるたの紹介	○児童の緊張をほぐす自己紹介を行い、緊張を和らげる。 ○社会科の学習かるたとして、笠間についてのかるたであることは、ここでは紹介しない。
2. 絵札提示（プリント配布） ・知っているもの、場所に丸をつける。	○あまり多く丸がつかないことが想定されるため、実はすべて笠間に関するものであることを説明し、児童の興味を引く。
3. かるた活動 ・チームに分かれてかるたの読み札と絵札を確認しながら、かるた取りを行う。 ・地図で場所を確認する。 ・ワークシートの空欄を埋める。	○地図を用いることで、一つ一つの場所を空間的に捉えることができるようにする。 ○かるた取りをする場合には、札をとった後に解説文を読み、地図上で確認するまで行うことで、遊びっぱなしを防ぐ。
4. かるたクイズ ・かるた取りで学んだ知識の確認を行う。	○全員が2問以上は答えられる難易度のクイズを設定する。 ○かるたクイズ一覧を用意し、学習が終わった後もクイズで遊べるようにする。
5. まとめ（アンケート配布）	

表3 事前アンケート① 「笠間市のいいところ」

I地区校	T地区校	K地区校
栗がたくさんある（おいしい）、山がある、治安がいい、みんなやさしくて親切、お米が美味しい、平和なところ、 <u>自然豊かで暮らしやすい</u> 、広い公園がある、菊がキレイ、公共施設が多い、 <u>笠間焼</u> 、愛宕山、にぎやかで有名なものがたくさん、大きな事件がない、歴史がある、天狗伝説	大きな池があるところ、 <u>栗がたくさんある</u> 、大きな公園がある、どこに行っても店がある、 <u>農業がさかん</u> 、 <u>自然が豊か</u> 、雪が降る、好きな電車が3つある、治安がいい、悪態祭り、 <u>やきもの世界一</u> 、学校がいっぱいある、陶芸美術館	おいしい食べ物がたくさんある、 <u>田畑がいっぱいある</u> 、祭りがいっぱい行われるところ、涼しいところ、 <u>自然が多いところ</u> 、いろいろなお店がある、 <u>陶炎祭</u> 、 <u>栗がとれる</u> 、 <u>野菜がいっぱいとれるところ</u> 、 <u>笠間焼</u> 、 <u>稻荷神社</u> があるところ、静かなところ、イベントがたくさん、やさしい人がたくさんいるところ

下線は3校に共通する記述。

表4 事前アンケート② 「笠間市に関するアンケート」

質 問	I 地区校			T 地区校			K 地区校		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
1 大人になっても笠間市に住みたいですか。	47	0	7	25	0	16	26	0	9
2 笠間市の花のまつりを知っていますか。	0	29	24	25	10	6	16	16	3
3 宍戸小の近くにある資料館の名前を知っていますか。	8	1	44	23	0	18	0	0	35
4 笠間市にある天狗伝説が残る山の名前を知っていますか。	53	0	1	37	0	4	9	1	25

事前アンケート②の質問2～4（表4）は、K地区、T地区、I地区それぞれを代表するような事柄についての認識を問うている。質問3の資料館はK地区から遠い場所に位置していることもあってか、K地区の誰も知らなかった。一方、資料館が位置するT地区の小学校では、半数以上の児童が知っていた。また質問4の山が間近に見えるI地区の小学校では、全員が正しく答えることができた。自分の近隣地域については学習や生活を通してある程度知識があるが、市の範囲になると、認知度は大きく下がることがうかがえる。

表5は、かるた実施後に時間内に実施したかるたに詠まれた事象に関するクイズである。5の浄水場の正答率が低かったものの、他の問題では正答率が約8割以上である。

表5 かるたクイズ（単位：％）

問 題	I 地区校	T 地区校	K 地区校
1 笠間が全国一の生産量の茶色の食べ物は何でしょうか。	96	100	97
2 笠間図書館は何の貸し出しが日本一でしょうか。	87	97	86
3 岩間で始まった武道の名前は何でしょうか。	89	90	86
4 笠間の“やきもの”のお祭りの名前は何でしょうか。	76	76	92
5 笠間の飲み水をつくっているのは何というでしょうか。	37	66	28
6 友部の地名“随分附”は何と読むでしょうか。	59	63	61

表6 事後アンケート 自由記述から

いろんな笠間のよさや、すごさがわかった。笠間の知らないことがたくさんわかった。  
 笠間のことを知らなかったけど、とても勉強になりました。  
 自分が知らないことがたくさんあって調べたいと思った。  
 わからなかった場所がわかった。笠間は自慢できることがいっぱいある。  
 笠間市にはいろいろな文化があることがわかった。  
 笠間のいろいろな行事がわかりました。今までの復習にもこれからの予習にもなった。  
 笠間には知らない所がたくさんあることがわかりました。  
 笠間市にはいろいろな有名どころがたくさんあることを知った。  
 笠間にはいろいろな物があることがわかった。笠間の特産品がわかった。



笠間には住んでいるけれど、いろいろな場所を知らなかったので知れてよかったです！  
 絵札に書いてある場所の位置がわかった。知っていたものもさらにくわしくわかった。  
 笠間のいろいろな場所を知った。笠間にどんな建物があるかよく知った。  
 笠間にどんな建物がわかった。場所やお祭り、行事など笠間のことをいろいろ学べた。  
 笠間のことをすごくくわしくなった。  
 笠間市のイベントやどこでどんな人がどのようにしたのか、くわしく知ることができた。  
 笠間には楽しいことがいっぱいあるというのがわかった。かるたのおもしろさが分かった。  
 笠間かるたをやって行ったことのない所に行ってみたいと思いました。  
 笠間にはいろんなみりょくがあるんだなって思いました。  
 笠間のいいところがわかって楽しかった。☆マークで色々な場所がわかりました。  
 笠間かるたは簡単だけどわくわくした。とても楽しかったです。  
 普通に調べてやるよりか遊びながら覚える方がわかりやすい。  
 ☆マークがついているものがあり、それがどこにあるかがわかりました。  
 本の貸し出しが日本一。日本一がたくさんある。陶芸美術館の場所がわかった。  
 笠間市にこんなものがあるんだと知りました。笠間図書館は本の貸し出しがすごい。  
 笠間で合気道が始まった。わからないこともだんだん入ってくる。  
 御影石は東京駅で使われていることを知りました。これ全部笠間のだってわかった。  
 地名や特産品、有名な歴史がわかりました。次は陶炎祭に行ってみたい。  
 友部に随分附という地区があることを初めて知った。随分附の漢字が分かった。  
 笠間焼は知っていたけど、益子焼もあるのが分かった。全て笠間にあること。  
 食べ物で栗が日本一って初めて知った。いろいろな祭りがわかった。  
 飲み水をつくっているところの名前がわかった。笠間の名所がわかった。  
 菊まつりをはじめて見て菊がたくさんあるのがわかった。  
 お祭りや季節行事のことが分かって自学で使っていきたい。

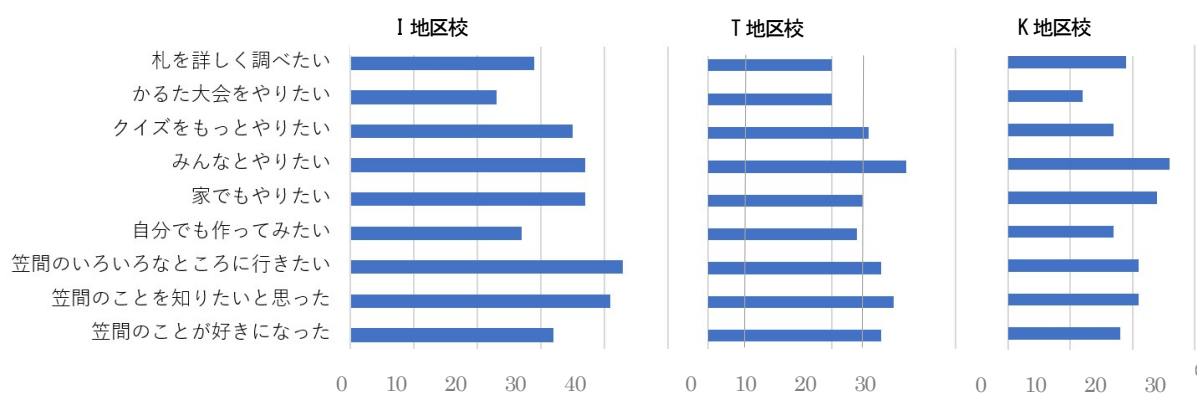


図5 事後アンケート（複数回答可）

アンケート②(表4)は、事前・事後と同じ内容で実施した。比較すると、平均正答率は30%前後から75%前後に大きく上昇している。かるた実施直後の回答とはいえ、事後のアンケートやクイズから、活動によって子どもたちの知識・理解を育むことができたといえる。これを定着させるには、かるたの継続的な活用が鍵となろう。また、いずれの学校でも当該地区以外の地区に関する問題についての正答率は低かったものの、事後のかるたクイズでは、全ての地区の事柄に関して正答率が上がっていた。これは、自分の身近な地域を超えた地域のことでも、かるたで楽しみながら学ぶことで、自然と知識を身に付けることができることを示唆する。

また、図5に示したように、事後アンケートでは、「かるたをみんなとやりたい」がT・K地区校でトップだが、I地区校はそれより「笠間のいろいろなところに行きたい」、「笠間のことを知りたい」という回答が上回っている。これらは他の2校も2、3番目、2、4番目にあがっている。このことから、笠間市に対する子どもたちの興味・関心を高めることができたといえよう。事後アンケートの記述でも多くの児童が「〇〇について知らなかったけどわかるようになった」等と答えていたことから、地域かるたは知らない場所について知るきっかけづくりをするために効果的な教材といえる。またほとんどの児童がかるた取りやクイズが「楽しかった」、「また使いたい」と答えており、小学校教育に欠かせない、“楽しく学べる”教材ともいえよう。

なお、先生方からは、「帯活動にすることでさらに知識の定着に繋がるのではないか」という意見や「ワークシートの更なる活用」など様々なお助言を頂くことができた。また、「特別な支援を必要とする児童も一緒にできる」をいう評価もあった。

以上のように、今回試作した地域かるたは、児童が笠間の「知らなかったことを知るためのきっかけ」として有効性が高いといえる。このきっかけを、学習の中で発展させることにより、市に対する児童の確かな知識や市に対する興味・関心、郷土愛を育むことに繋がっていくと考えられる。実践を終えた後の多くの児童が「笠間市のことをもっと知りたい」、「笠間市のいろいろなところに行ってみたい」と回答しているという事実から、児童の市に対する興味・関心や主体的取り組みの意欲をひきだす機能をもつことができたといえるだろう。

また、今回絵札に写真を用いた。写真は実際の地物や風景を画像化したものであるため、イラストや絵画などよりも、「行ったことがある」、「見たことがある」といった児童の気づきに繋がりやすく、彼らの経験を生かすことができた。その点で、社会科教材としては写真が有効であることが実践を通して確認できた。加えて、活動後の日常生活において、「かるたに出てきた」、「かるたで学んだ」といった気づきから学びの成果を実感し、さらなる学びへの意欲に繋がることが期待できる。

地域かるたは使う場面や使う教科によって、様々な学習活動に生かすことができる。先生方や参観された教育委員会の方からは、何より子どもの楽しそうな姿が見られたとの評価を得た。

笠間地域かるたは児童の市に対する興味・関心を高め、市の学習に対する意欲や探究心を喚起することができたといえよう。加えて、笠間市に対する知識・理解も深まっている。これらのことから、笠間地域かるたは小学校社会科の教材としての有効性があると判断できる。また、継続的にかるたを活用することによりその有効性はさらに高まるだろう。

なお、検証実践は小学校第4学年を対象に行った。本来の目的は小学校第3学年の社会科導入期においてどのような効果が得られるかについて明らかにすることであった。今回実践した小学校第4学年では、社会科に関する基礎的な知識が身に付いており、地図の見方や地図記号などの詳しい

説明をしなくてもスムーズに活動に入ることができた。第3学年での実施においては、かるたと地図とを併用することによって、地図の見方など基本事項の習得も合わせて行うのが効果的であろう。

## V 地域かるたを活用したカリキュラム構想

上述したとおり、各クラス一回の実践ではあるが、地域かるたは地域学習に対する有効性があると判断できる。継続して活用することによりその有効性は高まるとともに、様々な発展的活用が考えられる。そこで、地域かるたを単元でどのように活用していくか、また小学校6年間を通してどのように活用していくか、次にモデルカリキュラムを構想する。

まず、小学校第3学年の「身近な地域や市の様子」の単元では、児童に身近な地域や市に対する興味を持たせることが重要である。多くの学校が行っている地域調査の前と後で活用していくことにより、導入においては興味を持たせ、調査活動後での活用により学習をさらに深めることができるであろう。具体的には、2つのパターンが想定される。1つは、かるた遊びを単元の始めに行い、かるたを通して地図上での位置も確認する。そして、札の内容について解説を読んだり自分で調べたりして理解を深め、それを踏まえて地域調査を行う。これにより、予備知識が多少なりともある状態での地域調査が行える。もう1つは、地域調査を行い、児童で地図を作成する。そして地域調査で調べた内容を基に、児童が新たに自らかるたを制作するという流れである。なお、続く市内の生産や販売、安全や移り変わりの学習においても、導入などで関連する地域かるたの札を活用することも有効であろう。

今回制作した地域かるたは小学校中学年を主な対象学年としているが、低学年・高学年でも活用することは可能である。まず、小学校低学年は社会科がまだ始まっていない学年であるため、かるた遊びを中心に身近な地域に対する親しみを持たせる教材として活用していく。特に、生活科の町たんけんの際に活用することで、社会科の要素を取り入れた学習にすることができ、小学校第3学年になった時にギャップを感じずに社会科の学習に取り組むことが期待できる。また、小学校中学年の地域学習の際には、今回の検証実践のような活用の他に、札について詳しく調べる時間を設けたり、帯活動でかるたを行ったりすることで、市に対する知識・理解を深めていく。さらに、市の現状を理解した上で教員が適切な発問（例「陶炎祭にもっと観光客を呼ぶためにはどうしたらいいかな」）を行うことで、児童の深い学びに繋げることができるだろう。

小学校高学年では、主に個別の札を資料として活用することが挙げられる。国土や日本全体の産業や歴史等の学習では、地域との繋がりが薄くなりがちである。そこで、学習に入る前などに産業や歴史の札を取り上げて市の産業や歴史を振り返る時間を設けたり、日本全体の産業や歴史に市の産業や歴史を位置づけたりすることもできる。

地域かるたは主に社会科授業での活用を想定したが、他の教科でも活用できる可能性はある。制作した地域かるたの他教科での活用方法としては、例えば、国語科では、漢字の読みを学ぶ機会としての活用が挙げられる。履修していない漢字の読み方を国語辞典で調べたり、既習漢字の読みを確認したりする活動を通して、より漢字に対する興味を持たせることができる。また、言葉の意味に着目させることも効果的であるといえよう。次に、図画工作科では、絵札をモデルにした絵を描

く活動を通して、描画技術の向上を図ることができる。また、総合的な学習の時間での調べ学習にも繋がる。例えば、地名や歴史に関する調べ学習を行うことで、札の内容に関する理解が深まったりする効果が得られる。さらに、低学年の生活科でも、町たんけんの導入として使うことで、自分の身近な地域や自分の住んでいる市に対して興味・関心を持つきっかけになり得る。

児童が地域かるたを制作する活動は他教科との連携によって教科横断的な活動に発展させることもできる。児童が自らかるたのテーマを決めそれに関する調べ学習を行うことで、総合的な学習の時間での活用も可能である。小学校の教育活動全体を通してかるたを活用していくことで、よりよい学びに繋がっていくだろう。

地域かるたの制作や小学校での地域かるた実践を通して、「知らなかったことを知るためのきっかけ」として有効性が高いことが明らかになった。このきっかけを、学習の中で発展させることにより、市に対する児童の確かな知識や興味・関心、郷土愛を育むことに繋がっていくと考えられる。特に、今回対象地域とした笠間市のように市域が広く、市内の地域性が大きく異なる場合において、地域かるたが有効に作用したことから、他の市町村でも地域かるたは有効な教材となり得ると考えられる。

本研究では、時間経過に伴う知識・理解の変化や郷土愛の変化については調査をしきれなかった。一度の実践授業でどのような有効性が見られたか、という観点だけではなく、例えば週の帯活動として地域かるたを実践し続けていった場合に、児童にどのような変化が見られるのかという観点のもと研究を続けていくなど、繰り返しや継続しての活用の効果を検証していくことが必要である。

地域かるたは小学校社会科のみならず、小学校の教育活動全体を通して、中学校社会科、地域交流事業、家庭での活用など、様々な活用が可能である。

## VI 笠間地域かるたの活用

笠間地域かるたは、柳田が茨城大学教育学部4年次在学時に、2017年度卒業研究「小学校社会科における地域かるたの有効性について-笠間市を対象として-」において制作したものである。Ⅰ～Ⅴは、提出した卒業論文をもとに、その一部に加筆修正を行い、再構成したものである。

笠間地域かるたは試作版であり、これで完成というものではない。今後、学校教育をはじめ様々な場面で利活用が可能であり、使うことによってよりよい教材として改良していくことができると考え、令和3年7月に笠間市教育委員会にかるた10セットとデータを寄贈した。

令和3・4年度には、検証実践を行った小学校の1校である友部第二小学校で、第3学年の総合的な学習の時間において活用していただいた。まず令和3年度には「笠間郷土かるた」としてかるた取り競技を行った。それを踏まえ、令和4年度の総合的な学習の時間では、「発見！笠間のステキ」をテーマに掲げ、「笠間市の施設・自然に興味を持ち、地域の人々とのふれあいを通して笠間のよさを知り、親しみをもつことができる」ことを目標とし、年間を通してかるたを利活用した活動を行った<sup>7)</sup>。

その概要は以下の通りである。

### ① 市内見学の充実と出前授業の実施

車窓見学を中心としていた従来の市内見学を変更し、5月に「笠間郷土かるた」の札にある市立体育館、笠間公民館、笠間図書館の施設内見学、11月には筑波海軍航空隊記念館の見学を実施した。また6月には笠間市役所観光課による出前授業を行った。

② 「笠間郷土かるた」を用いたかるた取りの実施

③ 「笠間郷土かるた」の制作

②の活動のなかで「かるたを自分たちで作りたい」という児童の声があがり、児童が絵札と読み札を全て手書きで制作した。その際、札を分類したり、新しくできた施設を札に加えたり、調べたい札を選び説明資料を作ったりと、児童の提案から活動が発展し新たな工夫を加えた「笠間郷土かるた」が完成した。

④ 「笠間郷土かるた」を通した他市町村の小学生との交流

かるたに日本遺産「かさましこ」が詠まれているが、児童は誰も知らなかった。その内容を調べ、笠間焼の笠間市と益子焼の栃木県益子町という陶芸の繋がりから令和2年日本遺産に認定されたことを知るとともに、益子町の小学生と交流したいという児童の意見が出てきた。そこで11月にはオンラインで学校間交流学習会を実施した。札が交流のきっかけになったばかりでなく、3月の交流2回目には、オンラインによるかるた取りも実施した。

⑤ 「笠間郷土かるた」を通した地域の人たちとの交流

年度末には、さらに地域の人たちともかるた交流会を行おうという希望が児童からでて、かさま民話の会と学校運営協議会の方々の協力を得て3月にかるた交流会を実施した。まず、地域の方々が読み手を担当し、児童は4、5名のグループに分かれてかるた取りを実施した。競技後には、児童が札に詠まれた場所の様子をGoogle Earthで地域の人に見せたり、地域の人が昔の様子を話したりなどして交流を深めた。その後、民話の会の方に、かるたに詠まれた場所を舞台にした民話を披露していただいた。

以上のように、年間を通して「笠間郷土かるた」を活用することによって、笠間に対する親しみをもたせるとともに、主体的な活動意欲を引き出し、その結果、様々な活動に発展し、学校を超えた交流を実現させている。1年間という総合的な学習の時間での実践であるが、社会科での活用に対応する様々な要素をもつ実践であり、これを踏まえ、社会科での活用をさらに検討していきたい。

本研究では、笠間市を対象に「地域かるた」を制作した。「地域かるた」作成の手順は、他の地域でも援用が可能である。また既存の郷土かるたを社会科の地域学習で活用する際の参考にもなると考えられる。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、茨城県笠間市教育委員会には多大なご協力とご支援を賜った。とくに、検証実践の場を提供して下さった市内3小学校、試作段階からご支援・ご助言を賜った海老原靖志氏（笠間市教育委員会（当時））、総合的な学習において試作版かるたを利活用して下さった三澤秀生氏（友部第二小学校教諭（当時））には、記して感謝申し上げる。

## 注

- 1) 原口美貴子・山口幸男「地域かるたの全国的動向ーその社会科教育的考察ー」『群馬大学教育学紀要人文・社会科学編』44, 群馬大学教育学部, 1995, 25 - 254.
- 2) 笠間市教育委員会『小学校社会科副読本 かさま』, 2020.
- 3) 笠間市教育委員会『笠間志学 グローカル人材「かさまびと」の育成をめざして』, 2017.
- 4) 原口美貴子「白鷗大生と取り組んだ「小山かるた」づくりの実践報告ー小学校社会科身近な地域に関する学習の指導力向上を目指してー」『白鷗大学教育学部論集』9(2), 白鷗大学教育学部, 2015, 411 - 439.
- 5) 鈴木亜弥「地域活性を目的としたプロジェクトの実践」, 千葉工業大学修士学位論文, 2011.
- 6) 図1は柳田が撮影した絵札の例。ち:笠間市歴史民俗博物館、な:難解地名、ほ:笠間市立図書館、み:友部駅、を:民間交番あさひ。
- 7) Microsoft Office テンプレートを使用した。  
<https://www.microsoft.com/ja-jp/office/pipc/template/result.aspx?id=10734> (2021年3月最終閲覧)。
- 8) 令和3・4年度に三澤秀生氏(笠間市立友部第二小教諭(当時))が計画し、同校第3学年において実施した。